

単元名 保健分野 「感染症の予防」

第3学年 (1) 健康な生活と疾病の予防

1 単元の目標

- (1) 健康な生活と感染症などの予防について、理解することができるようにする。
- (2) 感染症などの予防に関わる事象や情報から自他の課題を発見し、感染症などのリスクを軽減したり、生活の質を高めたりする視点から解決方法を考え、適切な方法を選択するとともに、それらを伝え合うことができるようにする。
- (3) 健康の保持増進や感染症の予防について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。

2 単元の評価規準（一部抜粋）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>②感染症を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなどの身体の抵抗力を高めることが有効であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。感染症にかかった場合は、疾病から回復することはもちろん、周囲に感染を広げないためにも、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>①感染症の予防における事柄や情報などについて、原則や概念を基に整理したり、個人生活や学校生活と関連付けたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、感染症を予防するための適切な方法を選択している。</p>	<p>①感染症などの予防について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>



3 単元について

本単元は、中学校保健体育（保健分野）第3学年の「感染症の予防」において新型コロナウイルス感染症を取り上げた。学習指導要領解説では、新型コロナウイルス感染症などの新興感染症について、高等学校の科目保健における「現代の感染症とその予防」の中で取り上げて学習することを想定しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、指導の充実を図ることを考慮して設定した。

4 指導と評価の計画

時間	学習の内容	知	思	態	評価方法等
1	<p>【感染症とその予防】 感染症は、病原体が主な要因となって発生することについて理解することができるようにする。 1. インフルエンザに感染する原因について考える。 2. 学習のねらいを知る。 3. 病原体に対する体の抵抗力を知る。 4. それぞれの感染症の予防について考える。 5. 本時の学習のまとめをする。</p>	①			知:観察, ワークシート
2 本時	<p>【感染症とその予防】 感染症の多くは発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることについて理解できるようにする。 1. 感染症について知っていることを出し合う。 2. 学習のねらいを知る。 3. 新型コロナウイルス感染症を取り上げ、感染症がどのように拡大したか知る。 4. 新型コロナウイルス感染症の予防方法について考える。 5. 感染症にかからない予防策を考える。 6. 本時の学習を振り返り、ワークシートにまとめ、発表する。</p>	②	①		知:ワークシート 思:観察, ワークシート
3	<p>【性感染症とその予防】 性感染症の疾病概念や感染経路を理解するとともに、予防方法を身に付ける必要があることについて理解できるようにする。 1. 性感染症の報告数のグラフを見てきづいたことを出し合う。 2. 学習のねらいを知る。 3. 性感染症の疾病概念や種類を知る。 4. 性感染症を予防したり、広がりを防いだりする方法を考える。 5. 本時の学習のまとめをする。</p>	③			知:ワークシート
4	<p>【エイズの予防】 エイズの疾病概念や感染系を理解するとともに、予防方法を身に付ける必要があることについて理解できるようにする。 1. 病気の特徴から病名を考える。 2. 学習のねらいを知る。 3. HIVの感染経路から、予防方法を考える。 4. 自分が感染しない方法を考える。 5. 本時の学種のまとめをする。</p>	③		①	知:ワークシート 態:観察
5	<p>【健康を守る社会の取組】 健康の保持増進や疾病の予防には、人々の健康を支える社会的な取組が有効であることを理解できるようにする。 1. 健康診断は何のために行うのか考え、発表し合う。 2. 学習のねらいを知る。 3. 健康を守るための社会的活動を考える。 4. 保健センターや保健所の役割を調べ、整理する。 5. 本時の学習のまとめをする。</p>	④			知:ワークシート
6	<p>【医療機関の利用と医薬品の使用】 医薬品には、主作用と副作用があることを理解できるようにする。医薬品には、使用回数、使用時間、使用量などの使用方法があり、正しく使用する必要があることについて理解できるようにする。 1. 薬についてのイメージを書きだす。 2. 学種のねらいを知る。 3. 医薬品の種類を整理し、主作用と副作用があることを知る。 4. 医薬品の正しい使用方法を考え、整理する。 5. 本時の学習のまとめをする。</p>	⑤	②		知:観察, ワークシート 思:観察, ワークシート

5 展開

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価
<p>導入</p> <p>10分</p>	<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>2 本時の内容について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを確認する。 ・感染症からイメージされること、関連することを考え、ワークシートに記入する。 <p>思考ツール「イメージマップ」を使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策を踏まえながら前時の学習内容について確認する。 ・生徒が現在知っていることを取り上げ、理解しやすく、また関心がもてるようにする。 ・新型コロナウイルスが感染症の一つであることに着目させる。
<p>展開</p> <p>25分</p>	<p>3 学習課題を知る。</p> <p>【学習課題】 習得した知識を活用し、感染症を予防するための適切な方法を選択しよう。</p> <p>4 新型コロナウイルス感染症について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の感染状況 ・広がり ・原因 ・新型コロナウイルスの正体 <p>5 感染症にかからなかった人の行動にはどんな対策があったか。</p> <p>6 感染症の適切な予防方法について考える。</p> <p>【問1】 適切な予防方法を考えてみよ</p> <p>5つの事例から適切な予防方法を考える。</p> <p>小グループでの話し合い。</p> <p>一斉学習での情報共有。  ポイント 2</p> <p>◆〈思・判・表①〉</p> <p>感染症の予防における事柄や情報などについて、原則や概念を基に整理したり、個人生活や学校生活と関連付けたりして、自他の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、感染症を予防するための適切な方法を選択している。【観察・ワークシート】</p> <p>7 自分の今の生活状況(感染対策)について考える。</p> <p>【問2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を提示し、本時のねらいを押さえる。 ・新型コロナウイルスの感染状況を示し、イメージをもてるようにする。 ・新型コロナウイルスの特徴を理解できるようにする。 ・具体的な行動から感染症にかからなかった人はどんな対策をしていたのか前時の学習から理解したことを言ったり書いたりしている。【知識・技能】 ・新型コロナウイルスの特徴と感染予防のための3原則から、有効な手段を選択している。【思考・判断・表現】 ・個人からグループ学習にすることによって生徒相互の意見を整理しながら、正しい予防法につながるように話し合わせる。 ・感染症の予防について正しい知識を身に付け、適切な行動をとることが大切であることを伝える。 ・ワークシートに現在から将来社会に出た時のことも想像しながら具体的に書き出せるようにする。
<p>終末</p> <p>10分</p>	<p>8 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップを再記入する。(色ペンで付け足す) ・理解したことをワークシートにまとめる。 ・記入した内容を発表し、共有する。 ・教師のまとめの話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに分かったことや特に大切だと思ったことについて具体的に記述するように助言する。 ・友達の発表や教師の説明を聞きながら確かめさせる。

6 指導と評価の一体化に向けて(授業改善のポイント)

本事例では、「思考・判断・表現」の評価について教師が示した資料を基に、「適切な予防方法を考えてみよう」という発問に対して、個人の考えやグループの考え、それらを踏まえた最終的な自分の考えを記入させた。評価に当たっては、生徒のワークシートの記入内容及びグループでの対話の過程を教師が観察により見取るようにした。生徒が「学習したこと」を活用して、予防方法を考えたり、適切な方法を選んだりしてワークシートに記入している状況を教師は評価する。生徒は、考え記入する際に学習した「知識」がなければ活動を行うことができなくなってしまうため、教師が授業の中で何を学習させるかが大切になる。評価で着目すべきところは、適切な予防方法を選択できていれば「おおね満足できる」状況(B)、また、科学的根拠を示したり具体例を挙げたりして説明できていれば「十分満足できる」状況(A)として評価することが考えられる。このように、ワークシートの記入内容と教師が観察により見取った内容とを組み合わせるなどの多様な評価を行うことが、評価の信頼性を高めることになる。

7 まとめ

本授業においては、導入で前時の学習をもとに、イメージマップを使い、「感染症」について習得した知識から様々な意見を導き出した後、授業の最後に振り返りとして「感染症」に対するイメージマップを再び付け足して記入した。授業最初に書いたイメージマップと比較すると、ほとんどの生徒が新たに多くの内容を記入することができた。展開の中では、基礎的・基本的な知識を習得し、それを活用して思考力、判断力、表現力等を身に付ける学習活動を授業の中に取り入れた。グループごとに設定した適切な予防方法を考えることで、生徒が学習した情報を再生・再認識させた。単に再生するだけでなく、生徒自らが学んだ知識を活用させながら考えたり、友達と話し合いながら考えを深めたり、さらに友達の前で発表したりしながら学習する機会を設定したことにより、生徒主体の学習活動を行うことができた。発表の際生徒の何気なくこぼれた一言を教師が拾えたら、もっと授業が深まるという気付きもあった。

評価においては、一人一人をより多面的に捉え、より妥当な評価を行うためには、様々な評価方法を工夫し、組み合わせることが大切であると感じた。「何を学ぶか」だけではなく、「どのように学ぶか」「どのような力が身に付いたか」などの視点が「思考・判断・表現」の評価では重要となる。知識の習得を重視した上で、「知識を活用する学習活動」を積極的に行うことが今後求められていく。

